

「みかん推し!」

ここ周防大島は山口県内みかん生産量の8割を担う「みかんの島」として親しまれていますが、皆さんは山口大島みかんについてどのくらいご存知ですか？

山口大島みかんの歴史を振り返ってみると、その先駆と称される藤井彦右衛門が嘉永元年（1848年）の秋、紀州（和歌山県）方面に旅行した際に同地のみかに強く心を引かれ、栽培法や気候・土質等を調べ、大阪泉南地方で苗木を買って帰り、日前坂本の畑に植えたのが山口大島みかんの始まりだといわれています。

藤井翁は自家のためだけでなく郷土のために、その農業構造の質的改革を図ったとして、今も山口大島みかんの先駆者として敬われています。

また、藤井彦右衛門に続く中興の祖として、接ぎ木のプロフェッショナルこと山本萬之丞、みかん増殖の父こと品川秀助など、先覚者たちの苦心と努力によって、山口大島みかんの今日に至ります。

近年では山口県のオリジナル品種「せとみ」の中でも糖度（13・5度以上）や酸度1・35%以下）など厳しい基準をクリアした果実を「ゆめほっぺ」ブランドとして販売していることは皆さんご存知のとおりです。

みかん狩りをはじめジュースやゼリーなどの加工品に名物料理みかん鍋など、特産であるみかんを活用したサービスは多々ありますが、まだまだ「みかんの島」としてみかんに関連したサービスが埋もれているのではないのでしょうか。

これまでご縁をいただいた有識者の方々からは、週末滞在型のみかんオーナー制度、柑橘選果場における体験学習、20種類を超える品種ごとの味比べや商品開発など、農家と宿泊施設、他団体と観光協会が業務提携することでプラスアルファな面白いサービスを提供できるのではとご提言いただきました。

みかんの島の観光協会として、これからも「みかん推し」で周防大島を盛り上げていきたいと思えます。

■問い合わせ

（一社）周防大島観光協会  
☎0820（72）2134

元気ですか？

「こちらは社会福祉士です」

最近めっきりと寒くなり、冬の足音が聞こえはじめました。いかがお過ごしでしょうか。

私は、今年4月から周防大島町地域包括支援センターに社会福祉士として勤務しています。社会福祉士とは、日常生活を営む上で困りごとを抱えている方の相談に応じ、必要な福祉・保健医療サービスの連携や調整、その他の援助を行う福祉の専門職です。

私が社会福祉士を目指すきっかけとなったのは、認知症を患った曾祖母を在宅で介護していた祖父母の姿を目の当たりにしたところからです。「家で過ごしたい」という曾祖母の気持ちと「在宅では難しい」といった祖父母の気持ちがあつかり合う瞬間を幾度となく目にしました。思いをくみ取り、寄り添うことは決

周防大島町社会福祉士

大楽 明日海

（地域包括支援センター）

して簡単なことではないと思いますが、個人個人の思いを尊重し、目指す生活を一緒に考えていくことができる社会福祉士を目指していきたいです。

高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしい生活を送っていただくために、まずは地域に向き、皆さまとのお話を通して地域のことを知っていきたいと思います。まだまだ未熟ですが、皆さまの生活に少しでも役立つことができるよう、精一杯努めていきます。

地域包括支援センターは、高齢者の方の総合相談の窓口です。介護や健康に関することなど、お困りのことがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

■問い合わせ

地域包括支援センター  
☎0820（73）5506